

Okinoshimaだより



第211回セーリングフェスタ 7月6日(日)開催のお知らせ



来る、7月6日(日)セーリングフェスタを開催致します。梅雨の最中だとは思いますが、天候と風が良いことを期待します。日焼けや熱中症対策をしてご参加ください。

沢山のエントリーをお待ちしております。

日時 7月6日(日) 09:00 ミーティング(クラブハウス前)
10:00 レーススタート(予定)
12:00 タイムリミット(予定)

お申込み マリーナ事務所まで



「熱中症」にご注意を！！

梅雨入りしたとはいえ、梅雨前線が消滅してしまっており、6月で全国的に真夏日と猛暑日を記録するようになりました。

これから、乗船される機会も増えるかと思いますが、デッキ上では日除け対策、船内に冷房機器が無い場合は風通しを良くするための工夫や、長時間船内にこもらないようにしましょう。

既に熱中症による死亡者も出ていますから、こまめな水分の補給や、普段の食生活にも気を配る必要があります。

329号に記事を掲載を掲載しましたが、涼しい場所ばかりに居る訳にもいきませんので、暑さに身体を慣らすということも必要です。これを「暑熱順化(しよねつじゅんか)」と言います。

この暑熱順化は以下の方法で身につけることができます。

①ジョギングやウォーキングを普段から行っている。

普段やっていない人が極端に暑くなってから始めると危険ですから、やや暑い環境(最高気温25℃くらい)の時から始めると良いようです。今の時期に始めると身体に負担がかかる恐れがあります。

②ウォーキングもなかなかできないという方は、「毎日の入浴」で可能です。

普段からシャワー(特に夏場)の人には光熱費の面からも少し金額が上がるかもしれませんが、湯船に浸かることは最も簡単に暑熱順化できます。

39～40℃程度の湯船に浸かり、汗が出始める程度の時間浸かってください。おおむね10～15分程度です。

ただし、身体に負担がかかっていると思ったら湯船から出てください。

③サウナを利用する

普段からサウナを利用されている方は、それなりに暑熱順化されています。しっかりと身体を温めて、水風呂に入ることによって、冷ますという繰り返しを行いますから、血管を膨張させて縮めるという運動が起き、血圧もある程度下げる効果もあるようです。血行が良くなるので汗と共に乳酸が排出されて肩こりや腰痛にも改善がみられるようです。「整う」とよく言われるのはこういうところからきているのかもしれませんが。

暑熱順化の目標は、発汗量を増やし、その時の塩分の喪失量を低下させ、それによって自律神経機能が高まり、体温放熱の主体となる毛細血管密度を上げるということです。

こういった暑さに対する身体作りと、大丈夫だろうという過信をしないで、暑い場所にいる時の熱の逃がし方を工夫し、水分・ミネラル(塩分)の補給をこまめに行い、身体に無理の無い動きをすることも大切になってきます。

ちょっと「おかしいな」と思う前に我慢しないで身体を冷やすよう心掛けてください。

安全に酷暑を乗り切りましょう。

熱中症ってどんな症状？



- ☐ めまいや顔のほてり
- ☐ 立ちくらみ
- ☐ 筋肉痛や筋肉のけいれん
- ☐ からだのだるさ
- ☐ 吐き気
- ☐ 頭痛
- ☐ 汗のかき方がおかしい
- ☐ 体温が高い
- ☐ 皮膚の異常

(propman)



消えてゆく島



ご存知でしょうか？瀬戸内海には世界にも「例のない早さ」で小さくなっていく無人島があります。

東広島市安芸津町の沖合およそ500mに浮かぶ無人島のホボロ島です。

島とはいえ、岩でできた小さな無人島です。

年月とともに急速に侵食されていて、地元の人から「消えゆく島」と言われています。

『ホボロ島』とは竹で編んだかごをひっくり返したような形だったところからこの名前の由来だったと言われています。

1950年代はくっきりと2つの山が確認でき、地域で「ホボロ」と呼ばれる「竹かご」の形、そっくりだったホボロ島。

この数十年で、一気にその姿、形は変わってきたと言います。

地元で生まれ育った人たちはなぜ周辺の島はそのままなのに、ホボロ島だけ小さくなっていくのか、当然のことながら不思議に思ってきたそうです。

地元の人はいくつかの小舟で渡って潮干狩りや海藻を取ったりしていたそうですが、少しずつ小さくなる島に頭をかしげながら見ていたそうです。

この侵食の原因が明らかになったのは約20年ほど前のことで、地質学の専門家による調査で波風による調査の結果判明したそうです。

もちろん風化もあるのですが、何と生き物による「侵食作用」が起きていたことがわかりました。

広島大学名誉教授の沖村雄二さんによりますと、「上がってみてすぐダンゴムシみたいな私も初めて見る小さな虫が深さにして5センチほどの穴を開けてハチの巣のようにいっぱい穴を開けているんですね」

その正体は、見た目がダンゴムシのような「ナナツバコツブムシ」大量の「ナナツバコツブムシ」が岩をかみ砕いて穴を開け、穴の中でプランクトンを食べ生息しています。

この虫の数は全体の面積から考えるとだいたい100万匹くらい…どこから発生したか全然分からないそうです。

また、日本国中、他で報告されたこともなく、これで各方面に発表されたそうです。

岩だからそれなりに硬いと思いますが、元々この岩は、波風にさらされると風化しやすく、ナナツバコツブムシが生息するための穴を開けやすかったということのようです。

どうやらハンマーで数回叩くだけで簡単に割れてしまうそうです。名称は「凝灰岩(ぎょうかいがん)」と言い、火山から噴出された火山灰が地上や水中に堆積してできた岩石のこと。



1950年ごろ



現在



成分が火山由来ではありますが、生成条件から堆積岩(火山砕屑岩)に分類されます。

昭和時代中期に国土地理院が発行した地形図によれば、昭和3年に発行された地図には島の高さは21.9mと標記されており島名の由来になった「竹籠(ホボロ)」のような小山でしたが、21世紀初頭現在では高潮時で高さ6m、大潮満潮時に岩が顔をのぞかせる程度になっています。まだ先の話とはいえ、100年後には島自体が消滅してしまうとも言われています。

ホボロ島に生息するものに近い仲間で、マレーシアに生息するワラジムシは、砂岩に50cm近くもの穴を掘り、磯の岩石の表面積のうち、50%近い量を粉々にするとか。日本で類を見ない、「虫に食われる島」、この辺りを通られる時にも、一度見られてみてはどうですか？

東広島市安芸津町木谷

東広島おでかけ観光ガイド <https://higashihiroshima-kanko.jp/spot/hoborojima-island/>
ホボロ島の位置は「北緯34度17分37.3秒 東経132度50分26.8秒」です。

講談社から発売されている、「しまずかん」という書籍があり、ホボロ島を含めて日本の珍しい島50が掲載されています。子供向けの書籍ですが、なかなか興味深い島の特集となっています。

中身を一部紹介しますと、

①パプアニューギニアからやってきた「南大東島」

約4800万年前、パプアニューギニア(赤道付近)で生まれたこの島、地殻変動で毎年7cmずつ移動し、今は沖縄の近く。

このペースですと、約1億年後には北極に到達する島。

周囲は岸壁で、船こそ係留できますが、人間が上陸するには、クレーンにゴンドラを取り付けて釣り上げます。

②大人の事情でサイボーグ「沖ノ鳥島」

小笠原諸島父島からでも約1,000km離れており、島の形状はなす型に近く、東西に約4.5km、南北に約1.7km、周囲11kmの卓礁で、東京ドーム107個分もの大きさになります。礁内には、満潮時においても海面上に残る北小島、東小島の2島が存在し、周囲は直径約50mの護岸コンクリート(消波ブロックを含む)で防護されています。

沖ノ鳥島の基線を根拠とした排他的経済水域(EEZ)は、日本の国土面積より大きい約42万km²にも及びます。これ、すなわち、大人の事情…

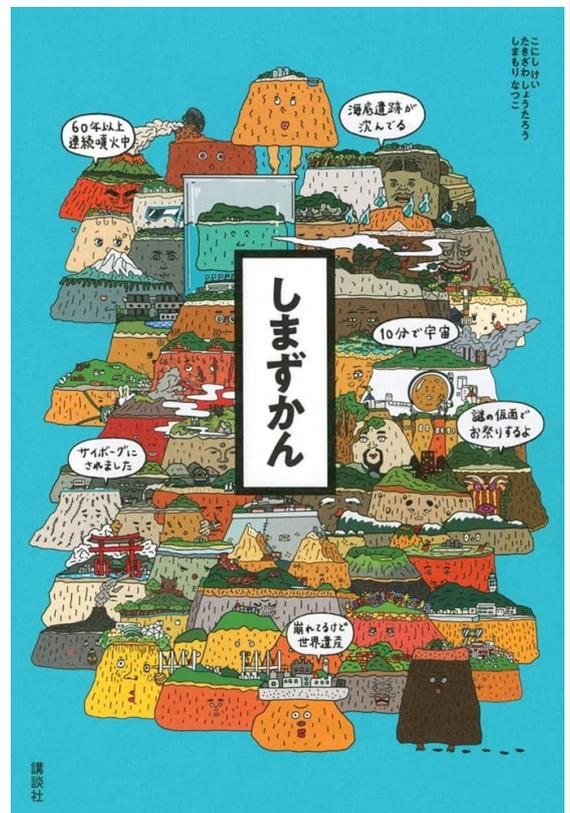
③村度が生んだ世界遺産「厳島神社」

宮島に位置する厳島神社、実は神の島(ご神体)に建立するのは畏れ多いということで、海の上に建立された!?

などなど、島に関するトリビアが掲載されています。

今年は既に真夏が到来しており、涼しい場所で読書も良いかもです。書店でちょっと手にとってみてください。

(propman)



お知らせとお願い

マリーナ場内での魚釣りは、マナーを厳守していただくことが前提で、特に禁止はしておりません。

特にゲストの方に、マナーを徹底していただきますようお願いいたします。



- ① 桟橋上の置き竿は通行の妨げになります。通行される方の邪魔にならないよう、配慮をお願いします。
- ② 係留艇の近くで釣りをしない。無断で係留艇に上がらない。撒き餌などで汚さない。釣り針を引っ掛けないように。
- ③ 仕掛けや餌、魚の死骸を放置しないでください。(撒き餌の飛散や、釣り針、魚・ヒトデ、漁網などの放置)
- ④ 知人・友人の方など、釣り目的でオーナーさんの同伴無しでのご来場は原則禁止とさせていただきます。
- ⑤ 特に小さなお子様をお連れの際は、お子様の動向に注意し、桟橋ではライフジャケットの着用をお願いします。

以上をお守りいただき、ハーバーライフをお楽しみくださいますようお願い申し上げます。

株式会社トス 沖野島マリーナ

〒737-2214

広島県江田島市大柿町深江 836-3

Tel 0823 (57) 2450

Fax 0823 (57) 6845

HP <http://www.okinoshima-marina.jp>

Email info@okinoshima-marina.jp

発行責任者：山内貴宏

制作・編集：propman

編集後記

インターネットによる情報の収集や発信、AI技術の進歩など、我々は大きな恩恵を受けていますが、近年、SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)の普及で、自由に情報発信と閲覧ができるようになってきているのはご存知の通りです。

その影響もあってか、大きなデマが流され、それが拡散して行って誹謗中傷や大きな騒ぎに発達して、商業ベースや政治、ましてや人の命も揺さぶられるということも多々発生していますね。

現在、ある漫画の内容が独り歩きし、7月に日本で大地震が起きるとい根拠の無いデマが拡散してしまい、国内外で大きな波紋を呼んでいます。

もともとの内容では、地震ですらなく、フィリピン沖での海底の噴火による「大津波」が日本を襲うという予知夢という設定だったので、大地震や富士山の噴火、隕石の衝突等々とその形態を次々と変えながら、「7月5日」という運命の日に向かって急激に膨

張し始め情報の化け物のようになってしまったようです。

先日、気象庁長官は、「現代の科学的知見では日時と場所、大きさを特定した地震の予知は不可能だ」と述べ、「そのような予知の情報はデマと考えられる」と明言しました。

ただし、「日本ではいつでも地震が起きる可能性があるとして、日頃から地震の備えの確認をする」ことを勧めました。

これらのデマのせいで、航空会社は6月19日、週4往復で運航している鹿児島～香港の定期便全便を7月から10月25日まで運休すると明らかにしています。

これは、地震の予知によって運行を取りやめたのではなく、予約客・利用客の激減ということです。

危険なので渡航を諦めたり、キャンセルが続発したということです。

航空会社としては大打撃ですね。

かつて宗教団体の教祖が地球全体に大地震が起きると「予言」し、その日

を迎えて何も起こらなかったため、周囲から責められて自殺未遂に至ったということがあったそうです。

当時は口コミが殆どだったようですが、今やスマホ世代ですから、一気に拡散してしまいます。

古くは1970年代にイスラエル・アラブ諸国間で勃発した第四次中東戦争に端を発するオイルショックに伴うトイレットペーパーの買いだめがありましたよね。私もよく覚えています。

近年もコロナ禍にトイレットペーパーの買いだめが起きています。

こういった情報は、それを強く信じている人ほど耐えられないほどの不協和を引き起こし、あらゆる手を使って問題を解消しようと躍起になる＝「パニックを生む」…ということでしょうか。

拡散による誹謗中傷や携帯電話を使った詐欺事件も多く発生していますし、発信する側も、それを受け取る側も情報の分析には慎重にならなければいけませんね。

(propman)

